



ハマナデシコ *Dianthus japonicus* ナデシコ科

名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター No. 59 2020年7月31日発行

名古屋大学博物館からのお知らせ

1. 今後の予定について 館長 吉田英一

友の会の皆様には日頃よりお世話になり感謝申し上げます。新型コロナの影響により、長く博物館が休館となりご迷惑をおかけ致します。博物館開館について、コロナ対策を講じた上で8月より限定的にでも開館する方向で準備を進めておりましたが、感染再拡大を受け7月25日の段階で入校規制レベルが再び高められ、未だ開館が困難な状況にあります。入校規制が緩和され次第、開館をとという思いで準備しておりますので、今暫くお待ち頂けますよう宜しくお願い致します。

2. 博物館 HP のお知らせ 宇治原妃美子

休館中も博物館をみなさまにオンラインで楽しんでいただけるよう、「おうちで名大博物館」をホームページに公開しました。常設展示紹介の動画や、収蔵品紹介のよみもの、PDF ファイルを印刷してハサミで切って使用する「ホネパズル」などを掲載しています。お時間がある時にゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。なお、今後もコンテンツを充実させていく予定です。



会員の原稿募集

この時期、どのようにお過ごしですか。皆さんの思いをニュースレターにお寄せください。400字以内でテーマは自由です。4頁最下段の連絡先までお送りください（メール／郵送どちらでも）。

投稿をお待ちしています。

2020年度名古屋大学博物館「友の会の集い」は中止します

先のニュースレターでは、秋に延期する旨お知らせしましたが、コロナ感染拡大はなかなか収束する気配が見えず、残念ながら今年度の「集い」は中止することにします（毎年秋に開催される名大のホームカミングデイも中止となりました）。以下のように会計報告をさせていただきますのでご了解ください。

2019年度会計報告

事項	収入額	支出額	差引額
前年度繰越額	837,494	—	
2019年度会費 (2019.4～)	63,000	—	
郵送料(定期刊行物、 連絡費等)		175,523	
謝金		20,000	
サークル活動補助		2,500	
ボランティア活動補助		21,000	
カレンダー作成補助		21,629	
事務経費等		28,713	
その他(ボランティア 保険料等)		2,750	
2019年度計	900,494	272,115	628,379
2020年度会費(1月 ～3月)	244,000	—	244,000
来年度繰越額			872,379

会費納入について

2019年度、2020年度の会費未納の方には振込用紙を同封いたします。9月末日までにお振込みください。お振込みがない場合は次号からニュースレターの送付を停止させていただきますのでご了解ください。

***名古屋大学博物館のアンケートでお問い合わせくださった方へ:** 無記名のため、こちらからはご連絡がとれません。入会や退会のご連絡は、4頁最下段の連絡先までお願いいたします。

博物館・休館に思うこと

島岡 眞

皆さんはこの〈自粛〉生活を如何、お過ごしでしょうか。一時市内の人出は絶え、バスも地下鉄も乗客無しのまま走るといふゴーストタウンの様相を呈していました。さすがに6月に入り、沢山の人口を抱える都会であることを少しずつ表して来ていますが、マスクを着けなくては近隣の散歩も憚れる日常です。

これも2月末に安倍首相が突然、全国一斉休校要請を出したことが始まりです。私は当初、この対象は小中高生だけだと思っていたのですが、大学ばかりか図書館や博物館にも適用されることになり、大変困った事態になりました。このコロナ感染症は関係資料を読むほどにその脅威を知ることになりますし、これ以降の第2、第3波の再来を恐れています。しかしそれでも、私たちの生活は維持されなければなりません。〈不要不急〉の外出を避けるとの掛け声で、博物館や図書館が閉ざされて良いのかという思いです。

この感染症への対策として、私たちの常識に定着しているのが〈三密〉を避けることです。ところで博物館や図書館が三密になるのはどのような時でしょうか。ましてや大学博物館では、ヨッポドのことだと思っています。私にとって博物館は展示資料からの学びの場であり、換言すると『モノとの対話を通して新たな世界を広げる空間』と言えます。

現在名古屋市図書館は利用時間30分の制限をしています。しかし、2月に他県から取り寄せる予定の図書が未だ閲覧できない事態が続き、知る権利への侵害だと抗議をしています。一方、名古屋市池下の古川美術館は4月初旬まで開館していたようですし、6月2日から開館しています。恐らくこの自粛生活の息抜きとして助けられた方も多かったことでしょう。

名大博物館は大学の基準（警戒カテゴリーB）に従い休館のままですが、展示のない博物館は倉庫と変わりません。是非近いうちの開館を願って止みません。（6月15日・記）



野外観察園のネコ



ヒシバデイゴ *Erythrina x bidwillii* マメ科

シリーズ Artist Earth (10)

鉄隕石特有の“かすり”模様

足立 守

写真はアフリカ南西部のナミビアで1828年に発見されたギベオン鉄隕石を切断して硝酸でエッチングしたものです。着物の“かすり”の柄のように見える灰色と白の模様は、鉄隕石に特有なものです。こうした模様は実験室ではできないので、この模様がある石ころは鉄隕石と考えていいと言われています。ウィドマンシュテッテン構造（オーストリアの科学者Widmannstättenに由来）と呼ばれるこの模様は、鉄隕石が形成される時に、ニッケルの多い部分と少ない部分に分離してできたものです。

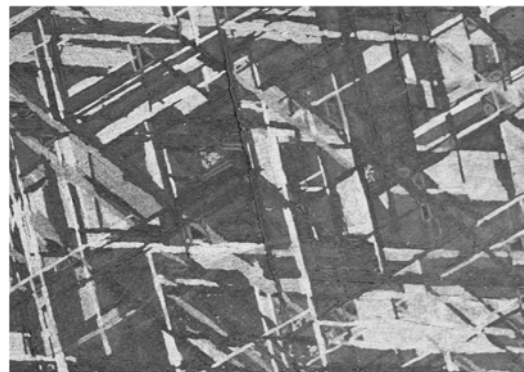
この“かすり”模様を作る鉱物が大きければ母天体が大きくゆっくりと冷え、逆に細かなパターンであれば母天体が小さく速く冷えたことが分かります。こうした鉄ニッケル合金の模様ができるには100万年はかかると考えられています。

ギベオン鉄隕石は今から約4億5000万年前に地球に落ちてきたと言われています。この落下年代は古生代のオルドビス紀末期にあたり、いわゆる五大絶滅期（地球生物の大量絶滅期）の第一回目の時期とほぼ同じですが、ギベオン鉄隕石とオルドビス紀末期の生物大量絶滅の関係はまだよく分かっていません。

地球の内部が地殻・マントル・コアの3層構造になっていて、中心部のコアにはニッケルを含む金属鉄が存在するという考えは、鉄隕石と地震波のデータから推定されているものです。隕石は地球を考える上でひじょうに大事な石ころです。



ギベオン鉄隕石の切断面（横約15cm）



典型的なウィドマンシュテッテン構造（横約5cm）

（田中 剛 名古屋大学名誉教授撮影）

名古屋大学博物館よもやま その2

古川記念館(古川図書館)

:明日の日本を担う若者を育てる

古川為三郎 志ま夫人の思い

野崎ますみ

2020年はいよいよ東京オリンピック開催と楽しみにしていましたが、新型コロナウイルス出現で開催どころではなくな



完成当時の古川図書館

り、延期となりました。博物館の開館も見通しがつきませんが、今回は博物館の建物「古川記念館」についてお話させていただきます。

現在、博物館が使用している古川記念館は、前回の東京オリンピックが開催された1964年(昭和39年)に古川図書館(名古屋大学附属図書館)として建設されました。上へいくほど大きくなる外観は、とてもすっきりして美しいです。内部の大きな吹き抜けは解放感にあふれ、屋根の三角窓は不思議な光と影を落とします。このモダンな建物は令和の時代になっても見劣りしません。設計者の谷口吉郎は、赤坂御所(前東宮御所)や名鉄バスターミナル、東京国立博物館東洋館などを手掛け、明治村の初代館長としても有名です。

当時の建設費2億円は古川為三郎氏からの寄付によるものでした。古川は当初、半分の1億の寄付を約束しましたが、志ま夫人が「その(残りの)1億を私が出しましょう。大学の図書館と言えば、明日の日本を背負う若い人が勉強するところです。そういう人を育てるのなら、私の財産など惜しくはありません。さあこれを使ってください。」と言って株券や通帳を持ち出してきました。これに対し古川は「これは元に戻しときなさい。私が土地を売ってでも合計2億にして名大に渡そう。」と答えたそうです。翌日、勝沼精蔵名大総長(当時)が古川を訪ね、1億円と思っていたところ2億円の全額寄付と聞き、喜び、自分の靴を玄関に残したまま帰った、というエピソードが残されています。

さて、「明日を担う若者を育てる」という意味では、博物館もその一翼を担うことを期待します。さらに加えて博物館では人類の遺産(収蔵品)を未来につなげるという使命もあります。古川記念館

は手続きの遅れか?残念ながら、未だ「登録有形文化財」がなされていません。「もの」を登録して、未来に残す事は博物館の大切な仕事ですので登録が待たれます。

また、博物館事務室近くの壁には記念プレートがあります。建設当時のままのプレートには古川為三郎氏・志ま夫人の肖像が刻まれています。新型コロナウイルスが収束し、名大博物館へおいでになる機会がありましたら、ぜひ、屋根の三角窓とこのプレートをご覧くださいと思います。



上: 完成当時の古川図書館吹き抜け



左: プレートに刻まれた古川ご夫妻

写真サークル春季写真展

オンライン展示のお知らせ

吉野奈津子

博物館閉館のため開催が延期のままになっていた写真サークル春季写真展は、現在オンライン展示として開催しています。

名古屋大学博物館ホームページのトップページから「企画展示・イベント」→「博物館友の会 写真サークル春季写真展」をクリックもしくは博物館トップページの写真展のポスターをクリックしますとオンライン展示の案内へ移動します。写真に関するエピソードと合わせてどうぞお楽しみください。

名古屋大学博物館URL

<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/>

オンライン展示のURL

<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/event/special/200310.pdf>

野外観察園 2020年夏

吉野奈津子

7月は雨ばかりでしたが名古屋周辺は特に大きな被害がないだけありがたいと思わないといけませんね。各地での災害、そしてコロナ、心が痛みます。

水を入れた池は水位をキープしており修理はバッチリだったようです。スイレン、コウホネなどの植物は4月上旬に戻しました。水を入れてすぐにアメンボがやってきて大繁殖。そのうち水の中にはミジンコのようなものが泳ぎ回るようになり、壁面にはイソギンチャクの子体版のようなヒドラが出てきました。連休前にはボウフラが。大きな生き物がいないので食べられることがなかったようです。恐る恐る迎えた休み明けですが、ボウフラはいなくなっていました。代わりにトンボが飛来。産卵し、すでにヤゴもいます。池ではボウフラに悩む必要はなくなりました。トンボが元どおり戻ってきてくれホッとしています。

雨が続いたので今年はオオボウシバナがよく咲きました。普通のツククサよりもかなり大きく花の直径は4~5cmあり、ふちがフリルになっていてゴージャスです。この青色は水に溶けるので京友禅の下絵を描く染料として使われているそうです。

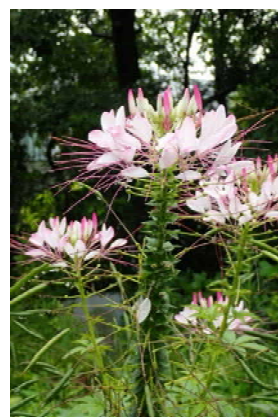
植物たちは雨にも負けず元気に花を咲かせています。私たちが負けずに夏を過ごしたいですね。



アマチャ *Hydrangea serrata* var. *thunbergii* アジサイ科



オオボウシバナ
Commelina communis 'Hortensis'
ツククサ科

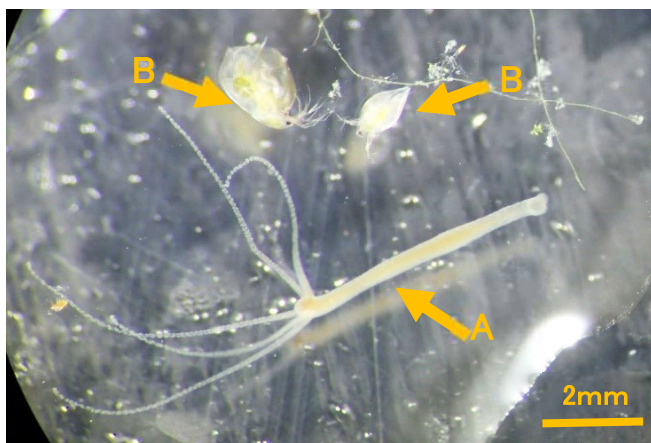


クレオメ
Tarenaya hassleriana
フチョウソウ科



現在の池とオオシオカラトンボ

Orthetrum triangulare melania トンボ科



ヒドラ *Hydra* sp. (矢印A) ヒドラ科

ミジンコ *Daphnia* sp. (矢印B) ミジンコ科

(実体顕微鏡で撮影)

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付
電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)
Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口
ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan
年会費 1000円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は 500円 (次年度は 1000円)
家族会員制度あり (同居の家族 1名まで)
<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会
他銀行からの振り込み ○八九 (ゼロハチキユウ) 店 (089) 当座 0166807